

2022年夏季手当

趣旨説明

5月25日、本部は交渉を行いました。以下、報告します。

「組合」

2021年度決算（連結経常利益2億・単体経常利益△26億）は、2020年度決算（連結経常利益14億・単体経常利益0億）よりもさらに厳しい結果となった。あの未曾有の西日本豪雨があった2018年度でも、連結経常利益45億を確保出来た事を考慮すれば、改めてコロナの影響がとてつもなく大きいことを理解する。しかしながら、このような状況下においても連結経常利益2億円を確保出来たことは、JR貨物グループも着実に体力がついてきていると認識でき、会社は「鉄道事業の営業収益がマイナスであり、本業である鉄道事業を安定的に黒字化したい」と言うが、会社の業績は全ての事業を合わせた結果を見るべきであり、鉄道事業のマイナスを理由に組合員の頑張りを踏みにじるような姿勢を見せるべきではない。

ワクチン接種が進んでいるが絶対に感染しないという保証はなく、組合員は感染症の恐怖と闘いながら指定公共機関の責務として、日々、安全安定輸送に努めているが、労働条件（最たる賃金面）に関しては、長い間、苦渋の選択を強いられている。今後、労働人口減少に伴い労働者の奪い合いが起きると予想され、常に優秀な人材が確保できる労働条件を整備することが必須であり、これはJR貨物グループ会社においても同様なことが言え、そのためにもまずはJR貨物本体が労働条件を底上げし、それをグループ会社にも波及しJR貨物グループ全体の士気を向上させ発展に繋げていくことが必要である。

2022春闘はベア実施となったが、大幅な労働条件改善には至っていない。世界情勢等で多くの商品が値上げされ、子供にかかる学費や塾費等は年々増加しており、期末手当は嗜好費でなく生活費の一部となっている。このまま「賃金は上がり、物価は上がる」という負のスパイラルが続けば、会社の財産である社員が潰れてしまう。社員がいなければ「中期経営計画2023」の達成は不可能であり、このことを会社は強く認識しなければならない。会社と労働者は一緒の船に乗っており、どちらかが傾けば船は沈没してしまう。先行きが見えないコロナとの闘いに労使が互いにタッグを組み、この難局を打破していくためにも、対価（期末手当）として希望の持てる数値を示していただきたい。結果次第では組合員のモチベーションは一気に落ち、会社全体の士気に大きな影響を及ぼすことも忘れてはならない。

最後に、我が組織はコロナに伴う支援策をJR連合国会議員懇にも繋ぎ会社の経営を常に考えている。経営状況が厳しいことは理解するが、私達の主張に答えられる体力は十分にあると認識する。JR貨物に期待して入社した新入社員や、女性社員が働きやすい会社を目指すためにも、私達の主張を理解し満額回答を強く求める。

会社・新型コロナウイルス感染症について、皆様には感染拡大防止の取り組みを行いつつ、指定公共機関としての社会的使命を果たして頂いており感謝申し上げます。現在、新規感染者が減少傾向となり、様々な行動制限が解除される動きがあるものの、急激な感染拡大の懸念が払拭されているわけではない。引き続き感染防止の取り組みは行っていく。決算が発表となり、連結ではかろうじて黒字を確保したものの、単体では赤字となった。直近の収入動向も計画に達しておらず厳しい状況が続いているが、引き続き真摯な交渉をお願いします。

組合・コロナ・自然災害・半導体不足等で、2021年度は大変厳しい結果となったことを真摯に受け止めている。2022年度の事業計画を計画通り進めていくには、組合員の頑張りが不可欠であることを経営陣に伝えて頂きたい。本日、要求の趣旨について説明したが、今後、真摯に交渉を進め誠意ある回答を強く求める。

会社・承知した。交渉を重ね社内議論も進めていく。

組合・次回交渉、収入動向の日時はいつか。

会社・6月3日を予定している。

組合・了解した。

以上
